⑤分田橋の架け替えについて

次に、山鹿市と熊本市を結ぶ熊本県道 198 号田底鹿本線のうち、菊池川に架かる分田橋の架け替えについてお尋ねいたします。

山鹿市には、南北に国道３号、東西に国道 325 号、国道 443 号の主要幹線が走っており、その国道を補完するために、県道、市道によるネットワークが構築されています。

このうち、県道 198 号田底鹿本線は、国道３号を植木町方面から山鹿市方面に向かい、植木町宮原の交差点を右折した山鹿市鹿央町千田の熊本市境から山鹿市鹿本町御宇田の国道 325 号交差点に至る、延べ約 3.6 キロの２車線県道であります。

国道３号と国道 325 号という２大幹線道路を結ぶこの田底鹿本線は、県立鹿本商工高校や鹿本農業高校のある山鹿市鹿本町の中心市街地を通っていることから、バス路線が走り、１日約 9,000 台もの車両が通行する、地域にとっての主要生活道路であります。

また、この道路は、九州道植木インターと鹿本町方面を結ぶ最短ルートであるため、植木インターが通行止めになり、国道３号が渋滞する際には、福岡方面への抜け道として、また、朝夕を中心とした渋滞

時の迂回路としても利用されております。

この県道田底鹿本線が菊池川と交差する橋が、昭和 12 年に架設され、84 年が経過した橋長 124 メートルの分田橋です。

この分田橋は、県が管理する 100 メートル以上の橋梁の中では最も古い橋梁であります。道路橋の寿命が一般に 50 年程度と言われてきたことを考えますと、この橋の古さが分かります。

ちなみに、国土交通省国土技術政策総合研究所の建設年代別道路寿命の推定結果を見ますと、1950 年以降今日まで、新基準で建設された道路橋の寿命は 60 年から 100 年と推定されている一方、分田橋のように、1940 年代に資材不足の中で旧基準により建設された橋の寿命は 30 年と見積もられています。

この分田橋をめぐって、地域住民の方々の間に不安が募る状況が続いています。

まず、これは当時の設計、施工技術に起因するものか分かりませんが、分田橋は、現代の橋と比べ、橋台が河川内にせり出していることによって菊池川の川幅を狭めているため、大雨による増水時に水かさが増えると、橋台のところで渦を巻き、土手の土がえぐり取られる状況が発生しておりました。

現在、周辺の土手はコンクリート構造物で補強されておりますが、周辺住民の方々からは、大きな橋脚に物が引っかかり、橋が流されて通行できなくなるのではないかと心配する声が上がっております。

加えて、平成24年九州北部豪雨の際は、分田橋の右岸側盛土が流失した上に、菊池川の水位が分田橋の橋桁ぎりぎりまで迫るなど、水害の発生を大変心配したところであります。

このように、山鹿市民が頻繁に利用する分田橋でありますが、先ほど述べましたように、非常に古い橋でありますので、地域住民の皆さんは、通行に支障が生じたり、水害の原因になるのではないかと不安を抱き、一日も早い架け替えを要望されております。

そこで、分田橋の現在の状況と今後の架け替え計画について、土木部長にお尋ねいたします。

〔土木部長村上義幸君登壇〕

～答弁～

◎土木部長（村上義幸君）　分田橋の現在の状況及び架け替え計画についてお答えいたします。

県が管理する橋梁は、約3,600橋あり、今後、老朽化による劣化の

進行などが懸念されることから、熊本県橋梁長寿命化修繕計画を策定し、予防保全に取り組んでおります。

この計画に基づいて、全ての橋梁を5年ごとに点検し、安全な通行を確保するために、健全性が低下した部分の補修や補強を行っています。

また、県内には、長さ15メートル以上で、架設後80年以上が経過した橋梁が11橋あります。これらの橋梁を含め、補修や補強を行っていますが、長期にわたって健全性が維持できない橋梁につきましては、計画的に架け替え工事を行っています。

分田橋は、現行の耐震基準に適合させるため、鋼板接着などの補強工事を行い、健全性を確保しています。しかし、計画的に架け替えを行う対象の橋梁であるため、今年度から架け替えの検討に着手したところです。

現在、分田橋は、地元山鹿市や河川管理者である国との協議を行うための概略の設計などを行っており、架け替えに向けてしっかりと取り組んでまいります。

〔渕上陽一君登壇〕

～切り返し～

◆（渕上陽一君）　ご答弁ありがとうございました。

分田橋の架け替えについては、当選以来何度か質問しようと思いましたが、河川については、下流から整備をしなければならないとのことで、何度か質問を断念してきましたが、ようやく本日質問することができました。

土木部長より、分田橋は、地元山鹿市や河川管理者である国と協議を行うため、概略設計などを行っており、架け替えに向けてしっかりと取り組んでいくとの答弁をいただきました。一日も早い完成に向けて、頑張っていただきますようよろしくお願いいたします。